# 株式会社河村工機製作所

# Excelを用いた単純なデータ集計業務に時間を費やしており、改善が必要と考えている 事務作業を効率化し、コア業務に人員を多く配置したい

# 株式会社河村工機製作所 実証結果【1/4】

#### 企業概要

- 企業名 株式会社河村工機製作所 (愛知県名古屋市)
- 社長 藤本 徹
- 概要
  - 昭和27年(1952年)創業
  - 自動車部品(プレス・溶接)の製造、自動車部品試作、プ レス金型を設計
  - マフラーカッターで高いシェアを持ち少量多品種にも対応
  - 金型設計から独自の生産ライン構築まで、「お客様に信頼さ れる会社」をモットーとしている

# 



#### デジタル化推進の背景

- 生産実績データの分析を毎回Fxcelで行っており、結果をメール で共有するなど、アナログ作業が多いと感じている
- できるだけ間接業務を減らし、新規事業や技術開発に対して人 的リソースを投入したい

導入ツール -



- Ui Path ロボットにより、ルーチン業務を自動化するRPAソフトである「UiPath」を使用
  - Excelで行っている分析作業や、基幹シ ステムからのデータ抽出、メールでの共有 作業等の自動化を図ることで、業務の 効率化を図った
    - ※「UiPath | はUiPath株式会社の登録商標です

# RPAにより自動化できる業務の洗い出しを行い、実装可否を検討した

# 株式会社河村工機製作所 実証結果【2/4】

--- モデル実証を通じて解決を目指した課題 ---

## 課題解決に向けた取組内容 -

#### Excelによる単純集計作業

● 生産実績データを分析するため、毎日Excelを使った 簡単な事務作業を行っており、非効率的な業務に 時間を費やしている

## 対象事務の洗い出し、優先順位付け

- 対象業務に関するRPA実装可否を調査した
- RPAの利用に拘らず、マクロとの組み合わせにより最適な業務効率化の 方法を検討した

#### 従業員のスキル不足

● 慣れないシステム操作に対して苦手意識があり、システム化に対応できるか不安である

## 継続的な社内教育の実施

● 研修を通じて、小さな成功体験を積むことで、従業員自身が業務改善に 積極的に取り組めるような環境づくりを行った

# UiPathの導入を進める中で、UiPath以外のところでのデジタル化も進めることができた

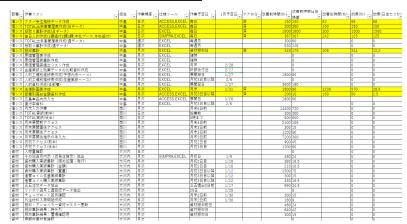
# 株式会社河村工機製作所 実証結果【3/4】

### 実証時に感じた壁および克服のためのアクション

#### UiPath導入の壁

- UiPathを導入すると1~10まで自動化してくれると思っていたが、 実際には自動化するための前段階の作業(Excel処理)が必要 であった
- 当初はExcelの操作もUiPathから考えていたが、マクロを使用することで、簡単に実現できることがわかった
- シナリオを作るにあたって、分岐のある処理が難しかった。しかし、自動化したいと考えていた業務は分岐のあるものが多かった。UiPathでシナリオを作る際は、時間対効果を考えて、業務の整理が重要であることがわかった
- スタート時には知識がないと操作が難しいと感じたが、この実証で UiPath操作の基礎を学習することができた。しかし、今後、自社の みで使用を続けるには、さらなる知識習得が必要

#### マクロが使用できる業務の洗い出し



#### 実証体制



- 全体の統括を経営企画室 藤本氏
- 実際の操作を中島氏、西川氏 がご担当

### 取組の成果

#### UiPathだけでなく、Excelの知識も向上

- UiPathの前段階の作業としてExcelのマクロの作成方法を知ったことで、多くの業務がマクロを作成することで作業時間を短縮できることがわかった
- マクロについては、社内勉強会を開催して、従業員への横展開を 実施
- RPAの動かし方、操作性を習得したことで、今後、業務フローを作成する際にRPAでの自動化を意識した業務整理ができるようになった
- 今回の実証で125時間/年の効率化ができた

# デジタルツールを導入して、継続使用するためには従業員全体の デジタルスキルの底上げが必要

# 株式会社河村工機製作所 実証結果【4/4】

今後の課題・目標 ――

#### (デジタル化を推進する他企業への) 示唆 一

## <u>UiPathの導入</u>

● 今回の実証では、RPA操作の前段階のExcel操作に時間が掛かってしまったが、データは集まってきているので、データの入ったExcelをマクロで集計して、RPAでメールを送信するなど、自動化を進めていきたい

#### 時間対効果の指標づくり

● RPAは一度作って終わりではなく、継続したメンテナンスが必要になる。RPAのシナリオを作成する時間だけでなく、そのメンテナンスにかかる時間も考慮に入れて、RPAを使用するにあたっての基準作りが必要と考えている

## 人材の確保

● RPAを操作する人が限定されてしまうと、メンテナンスと作成で業務が飽和してしまう可能性が高い。RPAを操作できる人の工数確保や体制を作っていくことが大切である

- UiPathを導入することで、ボタン一つで多くのことが出来るようになる 一方、上手く動かないなどのトラブルが発生した時に対処できる人 材が必要だと感じました
- 作成した一瞬のことではなく、長期的に使用することを見据え、特に、 人が変わった時にどのように引き継いでいくのかということはよく考えな いといけないと思います
- デジタル化を推進するには、忙しい日々の業務中でも、デジタルスキル、デジタルリテラシーを底上げするために、時間・環境を作り出すことが重要と感じました